

# 平成19年度 第1回志度高校学校会議報告書

2007.6.22

日時 平成19年6月22日(金) 18:03~20:20 (於 志度高校研修室)

## 出席者

生徒 金藤奈緒子(会長)、西岡寛那・星野彩花(副会長)、佐々木梨絵・朝比奈佑(3年代表理事)、多田一馬・前田康信(2年代表理事)  
宮房由依・川田千緩(1年代表理事)

保護者 原野幸記(会長)、野崎緑・木村昌枝(副会長)、國方博之・佐藤里見・砂川章代(保護者代表)

教職員 穴吹忠義(校長)、天野徹・山本恵三(教頭)、八木康彦(事務部長)、田中純一(教務主任)、谷豊、植松幸(生徒指導部)、  
高崎雅人(研究企画部)、谷畑祐二(特別活動部)、荻野尚令(総務部)

事務局 松村毬那(生徒)、木村昌枝(保護者)、溝淵正起・山崎藍子・小笠原圭一(教職員)

ガザ-  
傍聴 生徒名 保護者名 教職員名

## 議事録内容報告

### (1) 学校長挨拶

学校会議は3年目に入ります。昨年度、2月9日の学校会議がNHKで放送され、3月にも全国放送。反響があった。全国的にも珍しい取り組み。最初の学校会議ですので、議題は継続ですが学校をよくするためにいい議論を交わしてもらいたいと思います。

### (2) 代表委員自己紹介

(3) 議長選出 溝淵正起(事務局教職員)が議長として選出される。

### (4) 議事

## 【ロッカーの設置に関する提案について】

## 教職員からの回答

教職員：前回、学校会議の中でロッカーの設置の理由として生徒の皆さんから出された理由に関してお答えします。皆さんの学習環境の整備という点から考えて、正当な理由付けとして理解できるのは1) 荷物が多いと机の移動がしづらい。2) 机の横や床に荷物を置くと通行の邪魔になる。荷物に躓いてこける可能性がある。4) 身の回りの整理整頓がしやすい。の理由かと思われます。3) 荷物を置く場所がないため、机の上にその授業以外の荷物を置いてしまう。5) 机の周りに、かばんなどの大きな荷物を置いていると授業に関係のないことをしてしまいがち。については特にロッカー必要性を感じさせるものではありません。先生方に生徒の皆さんから出された根拠についてのアンケートを取った結果、1・2・4については正当な理由であるとの意見が多くありました。正当で必要性のある根拠であれば、理由付けは多くなくていいのではないかと思います。みなさんの学習環境をよくすることで、志度高校がよりよくなるという趣旨のものであれば教職員もそれに応じて考えるのではないのでしょうか。

前回皆さんから出されたこの「ロッカー設置要望」の提案を出された際には、ロッカーを設置するとさまざまな問題があるということと、備品として購入するには予算的に難しいという解答があったものと思います。この前回の学校会議の内容がテレビ放映されたことで、多くの関係者に志度高校の生徒たちが「ロッカー設置」を要望してがんばっているということを知られました。そのことを受けて、今年廃校になった大川東高校より、有効活用してほしいということで、ロッカーを優先的に志度高校に譲りたいという話がありました。その後の学校会議でどのような展開になるかはわからないものの、3月末までには大川東高校のロッカーを譲り受けないと他の施設に譲られるということなので、とりあえず、行為に甘えることにしました。ただ、ロッカーの数が270個ということで生徒の皆さん全員分には足りないのですが、うまく活用する方法を検討してもらえればと思っています。

ロッカー設置後想定される問題点として、

1. 教科書等の家庭学習で必要と思われる教科物件をロッカーに置くようになる。
2. ロッカーが壊れた場合、修理あるいはひどい場合は新規購入をしなければならない場合もあると思われるが、それらに必要とされる維持管理費用はどのようにするのか。また、生徒から徴収するとすればいくらが適当なのか。
3. 学校に不必要なものを持ち込み、ロッカーの中に入れるようになる可能性がある。
4. ロッカーの中ではなく、ロッカーの上にもものを置いたりして今よりさらに整理整頓ができていないように見えるのではないのか。
5. 故意にロッカーを蹴ったり、殴ったりして壊される場合がある。
6. 鍵をかけ忘れて中のものを盗られたりする。
7. 体育館シューズ、体操服、実習服などを中に長く放置して悪臭がする。
8. 部活用の荷物がばんは大きくてロッカーの中に入りきらない。

これら以外にもロッカー設置後にはさまざまな問題も出てくるのではないかと予想されます。前回の学校会議では予算難と、これらの中のいくつかの理由により、現状での設置は難しいとの解答があったものと思われる。教職員は当然これらの想定される問題点に起こりうるものがよくわかっており、その理由によりロッカー設置については「反対」であると意見も多くあります。ただ「生徒」「保護者」「教師」の3者で志度高校をよりよくするための学校会議というシステムがある以上、その中で懸案事項としていつまでも扱うのではなく、より積極的に建設的な意見のすり合わせを経て、理解し合えるところについては、多少は問題を含むことはわかっていながらも、歩み寄り前向きに取り組む姿勢が必要でないかと考えます。教職員としてはロッカー設置後、これらの問題点が起こりうるものとして取り組むこととなるのですが、これらの問題が起こった際に、すべて教職員の手を煩わせるのではなく、「生徒総意に基づく要望」ということを考えれば、ロッカー利用に際しての一部の負担は「責任」として負うべきではないかと考えます。よって、以下の点について教職員からも生徒の皆さんに要望をしたいと思います。

他校ロッカー設置状況アンケート結果 Q7「ロッカーにはどのようなものを置いているか」

教科書13校 ノート1校 体操服9校 シューズ8校 辞書3校 資料集2校 作業着3校

アンケートの回答を得た16校中13校までがロッカーに教科書を置いているという事実をアンケート結果で示しているわけですが、ロッカー設置をするということはロッカーに教科書を置いていいということを確認したわけではありません。教職員としてはこれまでと同様「教科書は持ち帰る」という指導していくことに変わりはありません。当然のことながら、生徒の皆さんがロッカー置く荷物として挙げた中にも教科書は入っていません。したがって、もし教科書等の教科物件がロッカーの中に置かれた場合は、生徒の皆さんでそのクレーム処理を手伝っていただきたいと思います。たとえば、生徒会と対象となるクラスが話し合っ教科書を置かないようにしてもらおうとか、臨時生徒総会などで共通理解をってもらうなどという方法を考えてもらえればと思います。「ロッカー設置」については、「生徒総意」に基づくものであり、生徒の皆さんの中に少数の者でも約束違反があってはならないものと考えます。修理また維持管理費などのお金を扱うようなことについては、生徒の皆さんに責任を持ってしてもらうことはできないかと思いますが、少なくとも「ロッカーに教科書は置かない」ということは責任を持って果たしてもらいたいと思います。

## 生徒からの提案

生徒：前回の学校会議でHR教室ではロッカーが設置されていないため、机の横や床に多くの荷物が置かれているのが現状です。多くの荷物が置かれているため、見た目もよくありません。そのため以下の主な根拠を元に「ロッカーの設置」を提案しました。

- ・ 授業中も生徒だけでなく、先生の通行の邪魔にもなる。
- ・ 机の移動がしにくい。
- ・ 授業に関係のないことをしてしまいやすい環境ができています。
- ・ 授業の状況を把握しにくい。

しかし、教職員側からは「教科物件の持ち帰り状況や破損、予算のことを考えると設置は難しい」との意見がありました。そこで、生徒としては大川東高校から譲り受けた270個のロッカーを利用し、テスト設置を行いたいと思っています。

「テスト設置について」

対象・・・全校生徒。

期間・・・3週間ごと。

ルールについて

体操服、体育館シューズ、体育の道具、作業着、部活動の道具、辞書、電卓は前回の提案

前回の提案の中にあつた、さまざまな荷物の中には、その他の一部の教科物件は入っていませんでしたが、

- ・ 予習、復習の必要性を感じない教科は持ちかえらなくてよいのではないか。
- ・ 全ての教科について予習・復習するわけではないので生徒の負担を軽減できる。
- ・ 現在、いくつかの教科では問題集やファイルを持ち帰らなくて言われている教科がある。

以上の理由によりさまざまな荷物にその他の一部の教科物件を追加したいと思っています。

辞書・電卓以外のその他の一部

国語便覧、問題集（ワープロや情報処理など）、資料集、地図帳、ノート以外のファイル。

ルールを守るための調査について

テスト設置をしたときの教科物件の持ち帰り状況について調査をする。

- ・ 誰が調査するか・・・クラスで2名新しい調査係をつくり、担任・副担任とともに調査をする。
- ・ どの程度のペースで調査をするか・・・週2回、金曜日のみ固定、あとの1日はランダムに調査する。
- ・ どのように調査するか・・・放課後に計4名で中身を見ての調査。

ルール違反をした場合

- ・ 注意・忠告・使用禁止について

一度目の違反については担任に注意・忠告をしてもらう。

違反を繰り返す生徒は、一度目は担任、二度目は担任、学年主に、三度目は担任、学年主任、生徒指導の順で注意・忠告をってもらう。

教科物件は学校にいる間は入れるが、帰宅の時には持って帰るという風にしたいと考えている。

議長：確認ですが、教科物件は学校にいる間だけ入れるが、放課後には持って帰るということによろしいですか？

生徒：はい。

議長：国語便覧などはロッカーの中に入れてもいいということですね。

生徒：はい。

## 保護者からの意見

保護者：授業参観等を通じまして、教室を見させていただいた中で、ぜひロッカーの設置は必要であると考えている。

生徒のみなさんが、テスト設置を考えていることは、とてもすばらしいと思う。

保護者としては、ルールを作り、守るということは大切だと思うが、テスト設置よりも早急に教室内の整備という面で早くロッカーを設置することが大事であると考えている。テスト設置で時間がかかるよりも、早く設置できるように考えていくことが大事であると思っている。予算に関して、学校側から厳しいという意見が前回出ていたが、大川東高校から譲り受けたロッカーを使い、残りのロッカーをどうするか、生徒側と保護者側でどうするかこれから確認していかなければならないと考えている。

## 質疑応答

議長：教職員側からは、大川東高校から譲り受けたロッカーを使いテスト設置を。ただ、教科物件は持ち帰ってほしい。

生徒側からはテスト設置を行いその状況を見て判断してほしい。ロッカーの中に入れるものの追加がある。

保護者側からはテスト設置よりも早急にクラスの整備をするべきだと考えるので、すぐに設置をしてほしい。

教職員：保護者のほうからはテスト設置なしで、2学期早々にも導入してほしいという趣旨なのでしょうか？

保護者：テスト設置の結果によりロッカーを導入するかしないというのではなく、導入するという前提で、自分たちで作ったルールを守ることが前提で導入して、残りのロッカーをどうするのかの話し合いをしたい。

教職員：できるだけ、早急にできればいいんですが、ルール作りは一生懸命作っているがロッカーを設置にあたり教職員側はこれ以上叱りたくない。ロッカーを設置する目的はみなさんの学習環境をよくするためだと思う。教科書を持って帰るということを守ってもらえればいだけである。ルールがなくても、教科物件を持って帰る約束を守ってほしい。お互いに協力しても、友達が置いて帰っていたら、持って帰ってよ。と一言声かける気持ちがいい。決して、叱りたいわけではなく、注意したいわけでもない。それは先生方はしなければいけないはずといい。自分たちが決めたルールをみんなで守っていこうという気持ちが大切であると思う。そういう気持ちでやっていけばよりよい学校づくりに向かっていくのではないかと。こうやって、ルール作りをどんどんしていかないと成り立たないようなことと、方向が逆方向に向いている。そのところがちょっとさびしかった。お互いに協力していくことで、いい信頼関係ができるのではないかと。はじめの頃はいつでもいいと思う。できるだけ私たちも教科物件を持って帰るようがんばりますということハートで感じさせてほしいと思う。教職員側もそれを期待していると思う。活字でもとめているのではない。

教職員：保護者の側からすぐに早急に設置してくれという意見がでてきたのが意外であり、どうしようかと考えている。ロッカー内を点検するということが、ロッカーは生徒たち個人の領域であり、教職員側が開けて確認することはできない。携帯電話についても、持ってきてはいいけども、普段持っているかどうか、かばんを開けて確認することはできない。中身が点検できないということであれば、教科物件を持ち帰るということ自体を取り下げたらどうかという意見もある。基本的には教科物件を持ち帰って勉強してほしいという前提でいく。前提でいくんだけど、テスト設置については、教職員側の意見はまとまっていないのですが、個人的な見解としては、先生方の意見としているんな不安材料があるので、テスト設置をしながら一緒にルール作りをしていきたいと考えている。テスト設置をして、だめだったからやめようということにはならないと個人的には考えている。

生徒：ロッカーのテスト設置については、保護者からは早急に設置し、テスト設置は必要ないといわれていたが、生徒側としては、作り上げていきたいのは教職員と保護者との信頼関係である。厳しいルールをつくってそれをクリアできたら信頼関係が強くなると思いテスト設置を要望した。先生方は注意をしたくないと言っていたが、注意・忠告をすべてなくすためには基礎作りが大切で、テスト設置の段階で未来の注意を減らすために必要になってくるので、生徒側からロッカーの設置を要望したので、厳しめのルールが必要になってくると思う。中身をみられないという点については、係り4人いるので、チェックするのは簡単ですすぐできると思う。放課後にするのなら本人と一緒に確認する。一回目だったら担任の先生も一緒にいるので一緒に注意できるので一石二鳥である。あるクラスで携帯電話が鳴って犯人がでてこなかったの、携帯電話を確認したということもある。それに関しては、先生の間でも整理をするべきだと思う。

教職員：テスト設置するのであれば、ありのままの実態を知ることが大切なのではないか。最初からルールは要らないのではないかと。

生徒：学校はルールの塊みたいなものなので、私たちがテスト設置を考えるにあたり、教職員側からルールを言わるといい、細かいルールを作った。教科物件については、先生では判断しづらい部分があると思うので、私たちが自分たちから調査するということが大事なのでテスト設置を考えてほしい。

保護者：調査というのは、テスト設置の間だけなのか？設置がされてからも調査していくのでしょうか？

生徒：調査は設置後も続けていくものではなく、設置後は週2回というペースではなく1ヶ月に1回とかという形で実施していきたい。

保護者：ロッカーを設置してほしいという生徒さんがほとんどなので、テスト設置の時の調査はすばらしい結果がでると思う。以前のかばんのときに調査を行ったときと同じようになるのではないかと。それ以後調査をしなくなったときに、本当にみなさんが先生の言われていること、保護者が感じていることをどれだけ理解して、自主的に理解して守っていくということになってくるのだと思う。調査をされるからルールを守る、調査されなくなったからルールを守らないという考えではなく、みなさん高校生なんですから、自分たちで決めた最低限のルールを自分たちで守ろうという気持ちでやっていってほしい。テスト設置期間中の調査というのは必要ないと感じる。皆さんの意識がきちんとしてロッカーを使っていこうという気持ちに向いていけば調査は必要ないと思います。保護者としては、みなさんの前向きなきちんとした自分たちでルールを守っていこうという気持ちを大事にしたいので、わざわざあら探しをするような調査は必要ないと思っています。

保護者：ルールを違反したときのことをこと細かくきめ細かく決めているのは、必ず違反しますよという風に受け取れる。生徒さん側が教科物件を持って帰っていない人がいれば、持って帰ってよ。という声かけでいいのではないのでしょうか。ここまで細かくルールを違反するとこうなると書いてあると、ルールは違反するためにあるという風に見えてしょうがない。保護者としては、みなさんに早くロッカーを設置して足りないロッカーの購入をどうするのかを生徒側と保護者側とで話し合いをしたい。

議長：教職員からも保護者からも、テスト設置をするにあたっての細かな罰則は必要ないんじゃないかという意見が出ていますが。

生徒：保護者からの意見はありがたいと思う。一回持ち帰るということで、テスト設置で評価をするのではなく、実態を見ていきたいと思う。

教頭：設置に関しては、実際上数が足りないのでは全部導入できない。平等にしていくのなら、今の何週間かおきにしていこうという形になるので、テスト的なものになるのではないかと。壊れたときにどうするかといった多少のルールは必要になってくると思う。ロッカーを入れる理由となった、荷物があふれかえっている状況が、ロッカーが導入されてどうなったのかということ調査するということができる。個人的にはロッカーを開けるといことは、本人がいようとしないと開けるといことはいいことだと考えている。ロッカーを導入された後は、個人の責任になると考えている。中身を見ないまでも、周辺の状況に関してアンケートを取ったり、調査したりということはしながら、生徒たちと一緒にしていってほしいのではないかと考えている。

職員：生徒指導部としての立場として話をさせていただきます。早急に設置するには危険な部分が多いと感じている。ロッカーを設置した場合、ロッカーの上に大きなかばんやラケットが置かれるというようなことも考えられる。かぎつきの扉なので、鍵のことをどう扱うのかということも細かいことも決めておく必要があると考えている。教職員の間でも、ロッカーの設置について心配する声もある。やはり、テスト設置をしてもらっているんな状況になったときに、どうするかということも考えなければならぬと考えている。

保護者：職員側にお聞きしたい。将来的には全校生にロッカーは設置するということがとらえていいのでしょうか？

教頭：ここに来るまでに教職員で話し合いを持っているのですが、そこまでの合意をしていない。次の学校会議まで待つとなるとあまりにもながいので、生徒は9月からテスト設置を考えているので、それまでには話し合っ方向を出したいと考えている。ロッカーが入ることで、マイナス点を心配している先生方が多くいるのが現状ですが、テスト設置の状況がだめだったので、導入はしないということにはならないと個人的には思っている。

保護者：テスト設置が9月になるという理由は何なのか？

教頭：生徒との間でテスト設置の方法について合意しなければならぬと考えている。保護者の方にも了解を取らなければならぬと考えている。今の生徒が出てきているものでは、教職員側としては難しいと思っているので、そのあたりを議論していく必要があるので、早急にしても9月になるのではないかと考えている。

生徒：かぎは紛失の恐れがあるので、かぎはしないと考えている。

生徒：注意・忠告・使用禁止はもしものときの保険なので、あるといいと思う。

生徒：保護者や教職員から、注意・忠告・使用禁止など罰則を厳しくしているのは、自分たちを信じていないからとか、そういう生徒が絶対に出てくるのではないか？という意見があったが、そのときにならないとわからないが、そのとき、こっちが戸惑ってはテスト設置がスムーズに進まないのでは、もし違反者が出た場合は、こういう対応をとるのだということなので、こっちが不安だから、信用していないからということを書いていいるのではありません。一応、どういう対応をとったらいいのかという保険で書いていることをわかってほしい。

教職員：テスト設置というのは実態を知りたいと思う。何回か調べたときに、この人は3回目置いているなというデータとして持つことでいいのではないか。それを元に次をみんなが考えていければいいと思う。テスト設置のときに実際にこの罰則をする必要はないと思う。できれば、ロッカーに置かないでといえば、はいという形で約束ごとを守ってほしいと思う。違反者が出たときに、話を理解してもらったらいいいのではないか。実際に、違反者が出たときに、違反者に対して、きちんと理解してもらるように話をしたりということをしてほしいと思う。いずれ、実際にロッカーを購入していくとき、保護者の側から出してもらって買っていきようになり、修理のときに自分で出すということになるが、自分でお金を出しているのに、使用禁止？って思うことができたりということがあつた。実際にやってみるとこういうことが起こりそうだとすることをテスト設置の間にわかればいいと思う。

生徒：少し勘違いがあると思うのですが、ルールについて、のロッカーに置く物については正式に設置されたあと導入していきたいと間が手いるが、調査、違反をした人の対処に関しては私たちがテスト設置をするにあたってのルールである。もしルールを守れていなかったら、注意をするのは教職員なので、設置後のルールについては私たちだけでは決めることはできないので、そこにある違反した人への対応はテスト設置中のみです。

教職員：ルールをいっぱい作らないでいいような方向で考えてほしい。ロッカーを置いたからといって注意をいっぱいしないでいいように考えてほしい。最終的には運営していくお金の面や修理の面でのルールは必要であるが、注意をしょっちゅうしないでいいように、みなさんも協力をしてほしいということである。

保護者：テスト設置が終わったあとは、怒るのは先生であるといったが、それは間違いである。みなさんの学校の生活環境がよくなるために、一生懸命協議してロッカーを置こうとしている。生徒さん同士で、お互い注意しあえるそういう学校づくりというか、そういった気持ちを持ってほしい。テスト設置期間中の調査については、生徒で注意をするが、それが終わったら先生に任せるといふのではなく、いけないことは、いけないと言えらる友達同士での注意をしあうということを考えていってほしい。テスト設置の後は先生が注意することだと考えているのは間違いだと思ふ。

教職員：個人的にはテスト設置以降のルールを生徒たちと一緒に作っていかれたらと考えている。普段の処罰は先生がしているが、せっかくのこういう学校会議で提案されて出てきたものですから、使用のルール作りと一緒にしていきたい。テスト設置の間に一緒に話し合いながらできたらと考えている。これは個人の意見であるので、学校会議の後に教職員側の意見をまとめていく必要がある。みなさんが出したテスト設置中のルールに関しては、先生方は合意はできないと思う。

生徒：質問なのですが、今のルールを作っているのと、後で一緒にルールを作っていくのではどう違うのか？

教職員：ここで出されたこの形でのルールでは合意できない。9月からはじめるのであれば、9月までの段階で何らかの形で合意をしていくことで、

生徒：最近、物を壊される事件がおこっている。そのことで先生方も生徒側を信用していないと思う。それは生徒側が悪いのは分かっているのに、生徒を信用してもらうためにルールを作った。それを先生たちに理解してもらえれば、後から話し合うことはできると思います。

教職員：4月5月に施設の使用状況が悪いことが何件あった。それについて生徒に不信感を持っていることではなくて、故意ではなく不注意かもしれない、それならそれで、不注意でもきちんと申し出てほしいと思う。決して、信頼していないということではない。もっとみなさんはまっすぐに考えてほしい。それが、高校生らしい姿ではないのか。根底には志度学校をよりよくするためであり、香川県下でも学校会議はここだけということはずばらしいこと。この中で、ロッカー設置を実現して、運営も自分たちでやっていますというふうになれば、後々にも引き継いでいければ、それはずばらしいこと。

保護者：話を聞いていると、生徒さんは先生に依存しているのが言葉の節々に出ている。ロッカーの設置に先生は関係ないと思う。保護者側はテスト設置は必要はないと考えていたが、先生側の意見を聞いていると、必要なかなとも考える。テスト設置のときに、生徒自身で、1週間に1回校内放送などを入れて、生徒自身で管理・運営していくべきだ。先生が先生がと依存しているのが気になる。

生徒：持ち帰っているんな意見を取り入れて解答を出していきたい。

議長：基本的にロッカーをつけるということでは3者合意である。そこで、9月をめどにテスト設置するという方向で、方法については学校会議後にはなりますが、生徒、教職員、可能であれば保護者の方にも設置のルールに関する話し合いに入っていただいて、9月までに決めていくということでしょうか？テスト設置をすること自体には合意ということでは話を進めてもよろしいでしょうか？

保護者：その方向で。

生徒：その方向で。

議長：テスト設置で取れたデータは、11月の学校会議で詰めていければと考えている。

## 【授業をよくするための提案について】

### 生徒からの回答

生徒：「宿題をする。必要に応じて予習・復習をする」について

「宿題をすること」自体には問題がないと思われるので、教職員の意見に合意したいと思ふ。

しかし、宿題の出し方については改善することを要望します。

- ・宿題については全てにおいて確認し、評価する。
- ・宿題をすることの目標を定め、それに見合った宿題をだす。 など

「興味・関心を広げるために、できるだけ多くの本を読む」について

興味・関心を広げる方法を本に限定することの必要性を感じないことから、この項目を削除することを要望します。

「協力して意見を出し合う」について

訂正があります。協力してではなく、積極的に意見を出し合うに直してください。積極的といつても個人で積極的の捉え方が違うので合意しないことを要望します。

### 教職員からの回答

教職員：1)「積極的に意見を出し合う」という点について

前回の学校会で生徒の皆さんからは「意見を出すことだけが積極的というわけではない。授業をしっかり聞いている生徒も積極的といえるのではないか。」という意見がありました。その意見はもっともですが、私たち教職員からの提案は「クラスの仲間と一緒に学ぶ」ために「積極的に意見を出し合う」ということですから、単に先生からの問いかけに対して返答することで積極的に授業に参加してほしいということではありません。「意見を出し合う」ような場面では、積極的に意見を出し合ってクラスの仲間と一緒に学んでほしいと私たちは考えています。この項目については、再度、このまま提案します。

2)「できるだけ多くの本を読む」という点について

前回の会議で生徒の皆さんは「自分の興味・関心を広げるためには、新聞・テレビ・インターネット・地域活動への参加などさまざまな方法があるので、読書に限定する必要はない」という意見でした。その意見に同意して、この項目については削除してもよいと考えます。ただ、私たち教職員としては、今でも読書はとても大切なものであると考えていますし、朝読の目的のひとつはみなさんに興味・関心を広げてほしいということです。今度とも読書の重要性についてはみなさんに訴え、指導していきたいと考えています。

### 保護者からの意見

保護者：十分な時間がなかったのでつめた話はできていない。積極的にという言葉が大きく出てきている。積極的ということが行動や態度に出なくてはならないという風を感じる。少し言葉を変えればよいのではないかと思う。クラスの一緒に学ぶという説明を聞くと納得できる。

本を読むということは、重要と考えているが、本だけが全てではないと考えているので教職員の側と同じ意見である。

議長：「できるだけ多くの本を読む」ということに関しては、三者合意ができています。「積極的に意見を出し合う」についてはずれがある。

生徒：積極的という言葉が「間違っていない、正しい意見を言わなければならない」と思ってしまうので、クラスの仲間と一緒に学ぶというよりは、間違っていないという気持ちが先にきてしまうので、周りと話し合うという言葉を変えてほしいということと、グループ活動などを取り入れて、生徒一人ひとりが意見を出しやすいような授業をしてほしいと思う。

教職員：今聞いていて、普段授業で正解をいかに求められているのかということ聞いて身につまされる。個人的には、グループ活動を取り入れていきたいと思う。言葉を変えてほしいということに関しては、今この場では無理ではある。正解だけを求められているだけではない、クラスの中で意見を出し合っている関係を築いてほしいということ。自由に意見が出る環境を作してほしい。

教職員：両者とも「積極的」という言葉に固守している。積極的に意見を出すということをクラスの仲間と意見を出し合うということだけに捉えるのではなく、自分の考え、主張をこの場に言えていると思う。今高校生だけに限らず、大学生にもキャリア教育ということが多く言われている。コミュニケーションがとても大事でお互いの意見をいい、間違っても正しくても、それを聞いて判断していくことが大事。身近なこととして、3年生は入社試験を控えている。面接で積極的に意見を言わないといけないと思う。試験のときに、試験官の意見をまじめに聞いているだけでは合格しないと思う。大きな意味で捉えると、積極的にそのままでいいのではないかと考える。

生徒：先生から問題を出されて、これ分かるよね？と言われるとさういづら。

生徒：クラスの仲間と一緒に学ぶというのは、クラスの中に一緒にいることで、ほかの子が意見を言っていることを聞いていることも一緒に万でいることと同じだと思う。先生は教える側でプロなんで、知識の幅が違う、私たちが知らないことも知っていて当然だし、同じ目線に立ってほしい。私たちの知識の幅を理解してほしいと思う。質問するにしても、これわかる？という言い方ではなく、どう思う？とかというやわらかい目線にしてもらって生徒も意見を言いやすいのではないかと。

保護者：積極的という言葉に違和感。圧力的な強制的な感じを受ける。性格的に自分から進んで意見を言えない生徒もいる。意見が言えない生徒も意見が言えるように訓練していくのが学校かとも思う。が、文章で活字になると、しないといけない。という風にとらえてしまうので、やわらかい形の言葉にかえてほしい。先生方が意図していることはよくわかる。

教職員：世の中に出て、何も言わないということは絶対ない。社会に出て、意見が言えるように努力をしてほしい。多少は無理をしても努力してがんばるということを授業を通してほしいということである。抵抗があるなら積極的にという言葉は話し合っただけで変えてもいいのではと思う。

教職員：お互いに、協力していこうことなので決して一方的ということではない。

議長：積極的という言葉には再考の余地あり。自然に伝わる表現の言葉にかえてほしいという意見が出ている。

教職員：宿題の出し方について改善することのなどについて などではなくて全てあげてほしい。

教職員：宿題の出し方について改善することの、宿題についてはすべてにおいて確認し、評価するについて、提出する宿題についてのみと考えているのか？たとえば、数学の時間に最後までできなかった1問の問題を次の時間までにしておきなさいというも入るのか？

生徒：確認はすべてにしてほしい。評価はすべていれるのは難しいと思うが、確認してほしい。できる限り評価するという事。

議長：など について生徒側は準備できているか？次回までに考えてほしい。まとめて教職員側に回答してほしい。

保護者：評価されなければ宿題はしないのでしょうか？

生徒：そういう意味ではなくて、出すのだったら、その後の対処をしてほしい。理解できているのかできていないのかという生徒の状況を理解してほしいという意味で確認してほしい。

保護者：それなら全てにおいて評価をするをはずしてもいいのではないのでしょうか？

生徒：それを、外すと今まで評価してきたものも外すという意味になると思う。テストまでにがんばってきたことが評価されなくなるので残したい。

保護者：評価するということは、この宿題については100点満点で何点か入るということですよね？先生方から宿題に関して、テスト前に出す提出物というのは100点中何点入るという指示はありますか？

生徒：今までの評価はそのまま評価してほしい。

保護者：すべての評価をするという意味に捉えてしまう。

生徒：宿題に関しては、全てにおいて確認してほしい。評価は今までどおり先生の判断で評価してほしい。

保護者：今までも評価してくれているのなら、評価をするという言葉はなくてもいいのでは？前回の学校会議では、せっかく宿題をしてきても確認してくれないものがあるという話だったので、先生方も確認してほしいと思う。

教頭：評価ということの意味合いである。保護者の方は、点数に入れない宿題はしないのかということかと言いたいのではないかと。評価といっても点数に入れるだけが評価ではなく、生徒のプリントを見て、コメントを書くのも評価の一部である。そのあたりを次回の学校会議で詳しく話し合えればと思う。

議長：生徒側の改善するところをまとめて、次回教職員側に回答していただきたいと思います。

## 【授業評価アンケートについて】

### 教職員からの回答

アンケートは生徒がどれだけ意欲を持って取り組んでいたのかという判断材料にしたい。

#### 1. アンケートの主旨を実施前にきちんと説明してほしい。

一般的な主旨についてはアンケート用紙に記載し、必要に応じてアンケート時に教科担当が補足説明をする。

志度高校では、生徒と教師がともに力を合わせて作り上げていく授業をめざしています。そのため、「授業を受けてよかった点」「改めてほしい点」「その他素直な感想や印象」を自由に記述してもらい、授業の改善に役立てています。建設的で積極的な意見を記入してください。

#### 2. 質問の項目について

授業評価なのに、なぜ、生徒の自己評価が入っているのですか。

アンケートの主旨を考えると、生徒がどれだけ積極的に参加できたかということ、授業を組み立てていく上で大切な要素である。生徒にとっては、この項目は自己評価と思えるが、授業の評価にとっても大きな意味を持っていると理解してほしい。特に、積極的に参加できなかった理由が、大変役に立つ。できなかった理由が、大変役に立つ。

質問の聞き方を変え、わかりやすくしてほしい。

全ての科目において同時期にアンケートを実施するため、できるだけ質問項目を少なくして生徒や教師の負担にならないよう配慮している。少ない項目で、多くの意見を記入してもらうためには、現在の記述始期の質問内容が最良だと考えている。また、質問内容が生徒に正確に伝わるよう、必要に応じてアンケート実施時に補足説明を行うようにする。

#### 3. テスト後ではテストの結果が影響するので、テストの前の最後の授業でアンケートを実施してほしい。

授業を受けた成果がテストの結果であるので、当然テスト結果も授業の一部として評価してもらいたい。そのためにもアンケートの実施時期は、今までどおり1・2学期末考査の試験発表日から終業式までの間に実施する。原則、試験後にアンケートを実施するが、試験のない科目や試験後授業のない科目については、試験前にアンケートの実施が可能となっている。

#### 4. 生徒・教師の負担を考え、月1回の実施が適当だと思う。

この授業アンケートは、その時その時の短期的な改善を目的としているのではなく、一定期間授業を受けてみての長期的な改善を目的としているので、年間2回が妥当と考える。短期的な改善については、毎授業時の生徒の反応から逐次対応している。なお、この項目については前回の学校会議で説明し了解済みである。

#### 5. 本音がかけないので、授業アンケートを無記名にしてほしい。

授業評価（アンケート）を教師は真摯に受け止めている。そのためには、その評価も真剣で責任のあるものではなくてはならない。責任を持って評価してもらうために、さらにアンケート自体も教育活動の一端として位置づけて記名式としている。しかし、記名式では本音が書けない等の意見があったので、1学期末のアンケートは試験的に無記名で実施し、2学期末のアンケートの実施方法の参考としたい。

#### 6. 積極的な発言を苦手としている生徒の意見も吸い上げてもらいたい。

1学期末のアンケートを無記名にすることで、ある程度対処できるのではと考えている。しかし、アンケートを無記名にしたり、自由に意見の書ける「授業相談箱」（現在設置予定はない）等の設置では根本的な解決にはならないと考える。仮に、記載された内容が批判的なものであっても、客観性のあるものであればそれは正当な意見である。また、客観性のない意見に対しては直接生徒と話し合い、お互いの理解を求め合うということも学校教育の一環であり大切なことである。アンケートを無記名にすると、授業への参加という気持ちが薄れ、生徒は「お客」になってしまう恐れがある。教師としては、アンケートをぜひ記名式にして、アンケートにおいても授業への積極的な参加を希望する。

#### 7. 教師がアンケートを読んだという報告をしてもらいたい。

アンケート結果については本校のホームページに掲載している。しかし、文字数の制約もあり、一人一人に対する回答ではなく、各教科としての回答となっているため、一個人にとっては十分な回答になっていなかった。教師によっては、授業中にもっと詳しい回答をしたり、放課後等を使って個人的に伝えていたが、全ての科目での実施が徹底されていなかった。今後は全ての科目において、授業等を利用して詳しい回答や個人的な回答を生徒に伝えるように改善する。個人的な回答を行うためにはアンケートが記名式でなければならない。

議長：生徒側からのアンケートで補足があればしてください。

生徒：ありません。

教職員：1学期の授業アンケートについては今手元にあるもので実施をご了承してもらいたい。

議長：3つ目の議題は次の学校会議に持ち越したいと思います。

### 香川大学柳澤良明助教授からの指導助言

学校会議についての出版について。学校会議も3年目となり、成果の年である。本作り自体が学校会議でのプロセスである。画期的な取り組みであると考えている。みんなで作り上げることがいいのではないか。また、アイデアをいただきたいと思う。

### 学校長挨拶

蒸し暑い中、長時間にわたり熱い議論を交わしていただきありがとうございました。

### 事務局より

次の学校会議は平成19年11月22日を予定しています。

以上、志度高校学校会議で協議された内容について報告します。

志度高校学校会議事務局